

平成26年度教育事業

「東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会（2月開催）」

事業報告書

1 趣旨

体験活動の手法や考え方について体験を通して学び、集団の中で望ましい人間関係づくりや個人の自己肯定感を高めるための指導技術を身につける。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 協力

プロジェクトアドベンチャージャパン（株）
みやぎアドベンチャープログラム（MAP）研究会

4 後援

青森県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会
秋田県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会

5 期日

平成27年2月21日（土）～2月22日（日） [1泊2日]

6 参加対象と人数

学校教育関係者、青少年教育施設関係者、教育委員会、県庁職員、学生、
NPO法人関係職員、その他興味をお持ちの方 25名

7 参加状況

	宮城県		岩手県		山形県		福島県		青森県		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
小学校教育関係者	9	6	1	0	0	0	0	1	0	0	17
青少年教育関係者	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	5
教育委員会	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
県庁職員	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
学生	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
計	12	8	4	0	3	0	1	2	0	0	31
	20		4		3		3		1		

参加申込総数31名 キャンセル3名（体調不良）参加実数28名

8 日程

	2月21日(土)	2月22日(日)
午前	◇受付 9:30(事務室側玄関ホール) ◇開講式 10:00(プレイホール) ◇実習1 10:20~12:00(プレイホール) 「体験学習法の目的と考え方」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 菅原 綾 氏 菅野 公司 氏	◇朝のつどい ◇実習3 9:00~12:00(大研修室) 「学級や学びの場をつくる活動の実際」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 菅原 綾 氏 菅野 公司 氏
午後	◇実習2 13:00~17:30 (プレイホール・大研修室) 「体験学習法の効果を体感する」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 菅原 綾 氏 菅野 公司 氏	◇演習 13:00~15:00(大研修室) 「学校教育に活かす“ふりかえり”」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 菅原 綾 氏 菅野 公司 氏 ◇まとめ 15:00~15:15(大研修室) ◇閉講式 15:15~15:25(大研修室)
夜	◇講義・演習 19:00~21:00(大研修室) 「学校教育における体験学習の意義」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 菅原 綾 氏 菅野 公司 氏	

9 実施状況

【2月21日(土)】

◇実習1「体験学習法の目的と考え方」

昨年度に続き年間2回の開催とした。1回目(6月開催)は「アクティビティの力を知る」ことを目標とし、2回目(2月開催)は「集団をダイナミックに交流させる手法を学ぶ」ことを目標とした。指導者として実際に現場で活かすための「応用編」という位置づけである。

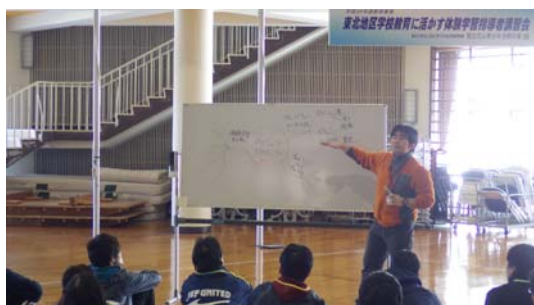
参加者は教員が半数以上を占めたものの、体験学習法を活かすことを目的とした青少年教育施設の関係者や教育委員会、県庁職員、大学生も参加した。幅広い教育関係者が興味をもっていることが感じられた。

本事業についてイメージを持ってもらうために、研修会の冒頭、PAJの高野氏から研修の概要を説明していただいた。

【主なアクティビティリスト】

- PAのお話
- ラインナップ
- PAネーム
- ユーミーリサ
- スピードラビット
- バナナ鬼
- 数あつめ
- カテゴリー
- ミッションインポッシブル
- へび鬼
- マネージャーじゃんけん
- 3人組でシェア
- カード展覧会

本講習の2日間のゴールは、「指導者としてそれぞれの現場で生かすこと」であり、最終日にはグループごとプランニングし、実際に集団を動かしてるところまで取り組むことを全体で確認した。その後、アイスブレイクとして教室でできるアクティビティに取り組んだ。これから始まる研修への期待感を高めながら参加者の不安を徐々に取り除き、お互いにかかわり合いながら学びを築き上げていくという心構えをつくることができた。



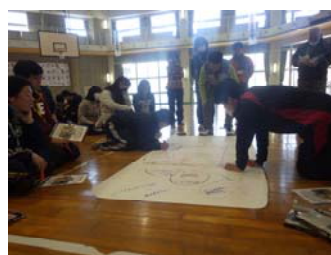
【体験学習サイクルについて説明する高野氏】 【スピードラビット～バナナじゃんけん】

◇実習2「体験学習法の効果を体感する」

午後の実習では体験学習サイクルを実際に体感してもらうことをねらいとして実習に取り組んだ。最初に理論を学んでもらうのではなく、これからの体験活動を通して参加者の中に起こっていることが体験学習のサイクルであることを実感してもらうこととした。いくつかのアクティビティを通して、「体験の中で何が起こっていたのか」「その体験を通してどう考えたか」「体験を活かしてどうするか」という体験学習サイクルを体感できた。

アクティビティは個人から集団へ、段階的に負荷の高いものに移行していった。その中で参加者同士が課題解決に向かってお互いの考えを出し合いながら解決策を探ることで、心の中に連帯感が生まれていった。実習の最後に心の中で感じたものをお互いにカードを使って紹介したところ、参加者同士の心のつながりの心地よさや学びへの意欲を示すものがたくさんあった。最後に初日の活動を振り返って本講習を通して大事にしたいことや自分の目標をビーイングにまとめた。ビーイングを掲示し、活動を終えるたびに適宜書き加えていくことで安心できる集団づくりの目標になることを学んだ。

- 【主なアクティビティリスト】
- ウッドベッカー
 - OSP鬼ごっこ
 - ハイハイハドン!
 - キャッチ(上・下・みんなで)
 - 道場やぶり
 - パイプライン
 - グループでふり返り
 - ソロでふり返り
 - ビーイング
- 【PAの手法を取り入れた授業】
- 小学校外国語
 - 高校家庭科
 - 小学校道徳



【アクティビティ体験 左…ハイハイハドン 中央…パイプライン 右…ビーイング】

◇講義・演習1「学校教育における体験学習の意義」

午後から夜間にかけての講習ではMAP研究会による小学校外国語、高校家庭科、小学校道徳の授業を児童生徒の立場で体験した。1日目の研修を通してスパイラルの構造で学びを積み重ねていくことが体験学習サイクルであることが理解できた。



【MAP研究会の講師3名による授業提案 左…菅野氏 中央…菅原氏 右…安達氏】

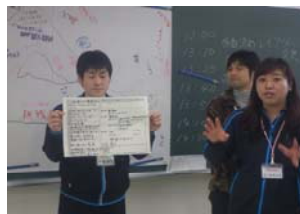
【2月22日（日）】

◇実習4「学級や学びの場をつくる活動の実際」

2日目の午前は教室でできるウォーミングアップを研修室で行った。小グループから全体を意識した取り組みへとアクティビティを段階的に変化させた。また、午後のグループごとの模擬授業にむけてのプランニングを3人1グループで行った。考える際のポイントの説明を受け、実際にシートにグループが設定したプランを書き込み、準備を進めた。



【プランニングのポイント説明】



【プランシートの説明】

【主なアクティビティリスト】

- 体調チェック
(色で表現→3人組で共有)
- 後出しじゃんけん
(勝つ、負ける、両手バージョン)
- ハッピージャンケン
(セブンイレブンじゃんけん)
- OPAについての解説
- 模擬授業の意図開き
- グループでプランニング
(3人一組で導入部分10分)
- 1グループが模擬発表(算数)

◇講義・演習2「学校教育に活かす“ふりかえり”」

本講習会最後の講義・演習では、実際に指導者の立場で集団を動かしてみる演習を行った。活動場面のテーマや教科、対象をグループで設定し、模擬授業という形で発表しあった。

活動の最後には、参加者それぞれが2日間の気づきをモールドを使って様々な形をつくり発表しあうことで、自分の気づきと他の参加者の気づきを共有することができた。

【アクティビティリスト】

- 2グループに分かれて発表会
- テーマに沿ってプランニングした模擬授業提案3人×4チーム
- 気づきの共有化
- 指導者として大切にしたいこと
- まとめたことの共有化 他



【指導者の立場で集団を動かす。その後趣旨説明。様々な教科や参加対象を設定した。】

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：%

	設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
①	事業全体をとおしてはどうでしたか。	96.4	3.6	0.0	0.0
②	事業の活動はどうでしたか。	82.1	17.9	0.0	0.0
③	事業の進め方はどうでしたか。	89.2	10.8	0.0	0.0
④	花山自然の家の職員はどうでしたか。	89.2	10.8	0.0	0.0
⑤	ボランティアの対応はどうでしたか。	82.1	14.2	3.7	0.0

参加者28名に対して、事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。5つの項目において、「満足」「やや満足」が参加者全体の96%以上と高い割合を占め、この事業は好評であったといえる。特に「事業全体を通して」の満足度が高かった。講義・実技・模擬授業構想、発表などがバランスよく配置されていたことが要因であると考えられる。来年度の企画の際、参考にしたい。

（自由記述より）

○アクティビティを紹介していただいたり考える時間もあったりして充実していた。
○たくさんの実践を通して学ぶことができた。○体験から座学での学びまで、様々な形で学ぶことができた。

○1日目が体験から学び、2日目は指導者としての学びがあり効果的であった。

○構成がしっかりしていた。とても円滑に進めていただいた。

○初めての方も、何度も来た方もともに学べるプログラムが工夫されていたと思う。

○年代、職業等々異なる方と、共に学びあえるのが何よりよかった。

○とても丁寧に分かりやすく指導していただきありがたかった。

○短時間でしたが盛りだくさんだった。新しい発見があった。

○若干慌しかったが、中身が濃い事業だった。短時間でしたが盛りだくさんだった。

○他県の方とも交流でき、とても充実していた。

○PA指導者のすごさに驚いた。自然の家職員さんの勤務態度に感心した。

○仙台大学の実習生の方々も協力的でよかったと思う。

●休憩時間があまりなかったので、もう少しほしかった。

●次々いろいろやって忙しかった。分刻みのスケジュールでは仕方ないか。

●仙台大の実習生が何のためにいるか分からなかった。

(2) 事業に参加する前のこと

①事業への参加経路

・今回初めて…10名　・これまでに経験あり…18名

②事業を知った手段

・チラシを見て…14名　・人から紹介されて…10名　・ダイレクトメールで…12名

・インターネットで…2名　・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど…0名

・その他…1名（ポスター掲示板）

③事業に参加した理由

- ・内容に興味があった…25名・友人・自己啓発のため…17名・知人に誘われて…2名
- ・上司にすすめられて…4名・講師がよいので…5名・交友を広げるため…7名
- ・その他…3名（来年度花山を利用するための下見を兼ねて、PAに興味があるなど）

【成果】

- ・プロジェクトアドベンチャージャパン（PAJ）と、宮城アドベンチャープログラム（MAP）の講師と事前に打合せを設定し、方向性を明確にしながら協力して事業プログラムを組み立てることで、本事業のねらいである体験学習の手法や考え方をよりよい形で事業参加者に学んで提供することができた。
- ・本事業が教育現場や施設で活躍される方のニーズにマッチしていることが感じられた。
- ・本事業の演習の部分で実際の実践例を体験させることで、体験学習サイクルが自然体験学習の場だけでなく、普段の授業に活かせることを提案できた。
- ・2日間にわたって数多くのアクティビティの体験を通して体験者から指導者の立場へ視点を変えることができた。2日間のテーマとしてあげた「集団をダイナミックに交流させる手法を学ぶ」について学び、参加者一人一人にこれからの目標を考えさせることができた。
- ・本事業の参加者にとって記述式のアンケートの結果は好評だった。アンケートの内容は以下の通りである。

<東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会事業をふりかえって>

（1）今回の講習で学んだこと気づいたこと

- ・簡単なものから、少し考えるものまで、個から集団へと段階を踏みながら実践していく点（プログラムの組み立て方）が分かった。活動後に振り返りや考えることで頭の中が整理されたように思う。自分の気づきから他の人への理解など知らなかったことへの気づきで嬉しい気持ちになるのだと改めて感じた。
- ・参加した他の方々の学びに対する熱意が伝わってきました。講習に繰り返し参加していることも驚きました。でもこの内容ならば納得です。
- ・他の職種の人と話すのはおもしろい、楽しい。
- ・様々な職場や経験をお持ちの方が多く、多面的な角度から物事が考えられ、勉強になりました。1人でできることが集団となると難しいと感じました。その分共有できるものも多い。
- ・MAPが様々な職種の人に広まってきていると感じました。1つのアクティビティも視野を広く考えて練れば、多様な形で行えると学びました。
- ・宮城県はPAの手法を取り入れ研究していてすごいな、いいなと思いました。研究集団があるというのはすばらしいです。
- ・講座の組み立て方が参考になりました。内容、時間、挑戦度等どうするのか。講師が出る場面、待つ場面も参考になりました。
- ・「フルバリューコントラクト」一人ひとりを大切にする視点、必要性を確認することができた。自分が行う活動やかける言葉一つで、人と人との交流がこんなにも深くなるものなのだということを実感できた。
- ・現場で使ってみたいと思うアクティビティがたくさんあった。特に「ビーイング」は非常に有効だと自分が体験して感じる事ができた。

- ・集団をダイナミックに交流させる手法を学びました。
- ・まずは生徒と同じ立場で体験してみる、ふりかえる、その後指導者として実践してみる。このステップを踏むことで、見えてくるものは異なるので、とても深い学びを得ることができた。
- ・人に教えるということが、とても難しいことではあるけれど、魅力的で楽しいものだということを再認識できました。
- ・職場では毎年4月の初めに職員間でも人間関係の構築や学級開きに役立つ教材の一つとして研修が行われている。活動を始める前までは不安の方が大きいですが、アクティビティを行っていくうちに、心が開き安心して活動できる雰囲気になるのだと改めて感じました。
- ・職員の皆様や講師の皆様がいつも素晴らしい講習をしてくれるので参加するのを楽しみにしています。今回は学生ボランティアの方が誘導してくれたり、運営をお手伝いしてくれたり、大変ありがたく嬉しく思いました。

(2) 今回の講習を実社会（職場、学校、地域、家庭）でどのように活かすか

- ・初めて出会う人とのコミュニケーションのとり方、近くても遠かった存在の地域など少しのアイデアでつながれるようなプログラム、提案ができるようになっていきたい。
- ・学級づくりはもちろんのこと、部活動でのよりよい集団づくり、学校全体での縦割り活動や、リーダー研修会など多岐にわたって活かしたい。勤務校に戻り、より多くの同僚に伝えられるようにしたい。
- ・自然の家を訪れる人達、地域の成人向け、指導者育成の講座等に活かしていきます。職員の細かい配慮も勉強になりました。
- ・現在自身に関わらせて頂いている社会教育の事業でも子どもたちが主体となった活動を目指しているので、是非活用させて頂きたいと思います。
- ・現場に戻った時に一番使えるかなと考えますが、今は子ども会等で機会を得たときにやってみたいと思います。
- ・学校で学級作りに活かしたい。ジュニアリーダー等の育成に活かしたい。
- ・居心地のよい学級作りのために授業や特活で活用したいです。
- ・PTA等の家庭教育学級等の場で活用していきたいと思います。
- ・今年教育実習があるので、実習中の授業内で活用してみたいと思います。
- ・グループでプランニングしたことは、すぐに実践できそうな内容です。
- ・学級で目標を決めたり、決めたことをふり返らせたり、皆で同じ方向を向いて進んでいくことが大事だと思った。
- ・人間関係づくりをするために、学級開きなどの時に活用したい。
- ・安心できる居場所づくりに活用したい。
- ・子どもを短時間で関係を深めるときに活かしていきたいと思いました。また、多くの人と一斉に何かを行う前の団結等を高めるチームワークをよくするのもよいと思いました。
- ・子どもと関わる事業に多く関わらせていただいているので、事業の中で活かして、子どもたちの心の中の氷を溶かしていけたらと思います。
- ・より良い人間関係の構築、その基礎となるのは相互の信頼にあると考えています。お互いに信じることで得られる良質な関係を地域に活かしていきたいと思います。

(3) 感想、フリーコメント

- ・興味のある内容と思い参加しましたが、ますますやってみたくて変わりました。同じ内容でも声かけ、雰囲気、組み立てで変わってくると思うので、自分自身も実践しながら勉強していきたいです。ぜひ活用します。
- ・他県の方との交流も楽しかったです。ぜひまた参加したいです。
- ・様々な角度からアプローチの方法があること、今までに体験したものでもアプローチを変えると違った効果が得られることが勉強になりました。
- ・この講習は、誰とでもすぐに仲良く活動できるのが魅力です。互いに大事なポイントを理解しながら、活動において最大限自分の力を発揮できるようなプログラミングができるようになります。
- ・たくさんの人が集まれば、それぞれの個性が集まり、第一声をあげる人、同調してくれる人、盛り上げてくれる人、まとめてくれる人など自分なりの居場所をアピールすることができていたと感じた。
- ・講師の先生方や花山青少年自然の家のスタッフのみなさまのおかげで、貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

【課題】

- ・今回の事業は様々な職種の方から申込まれたため、定員を超える参加希望があった。一つの学びの手法として、より多くの教育関係者に知ってもらい、新規参加者を増やしつづ開催ごと定員どおり参加者が集まるように広報を工夫していく必要がある。新規参加者獲得のための方策が来年度への課題である。どんなニーズがあり、どんな内容の研修を提供できればよいかを、もう一度考えて事業を計画していきたい。
- ・来年度は平日開催と設定したが、メリット・デメリットがあるだろう。
(自分のモチベーションと出張扱いの兼ね合い等。参加者獲得の苦戦が予想される。)



(最後に) 事業を支えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。
来年度もぜひご参加ください。ありがとうございました。